

赤い靴通信 420号

太平洋戦争が終り、空襲で壊滅した横浜の中央部には米軍の宿舎・通称カマボコ兵舎が建ち並び、周りは有刺鉄線で囲われていました。本牧地区は士官の家族の宿舎が立ち並んで、今の山手警察の向かいに「ビルチエコリング」という映画館があり、駐留軍とその家族向けのスーパー「PX」がありました。居住地は「エリア1」「エリア2」「エリアX」と別れ、かなり広く場所を取っていました。「エリアX」はいまでも森林公園の横にあってまだ解除されていません。ですからアメリカの街のようでした。

その片隅に「ボーイスカウトUSA」があって、休日になると軍人の息子が集まって訓練をしていました。隊長はジムベントンといって将校の一人でした。

ある日、私に電話があって「是非会いたい」と言うのです。意味もわからずにスカウトハウスに行くとジムは「松永さんは横浜14隊の隊長と聞いたのですが、私どもの隊の副隊長もやって貰いたい、余暇でもいいから」と言うのです。同じ志を持ってスカウト活動しているし、その頃は英語も多少不自由ではなかったのと、本場のスカウト活動にも参加したいと言うこともあって「やらして下さい」と言ってしまったのです。メンバーは30人くらいで中高生がほとんどでした。そのうちの10人くらいは横須賀に住んでいてバスでの送り迎えがあるのです。

隊長に「なぜ私が」と聞いたら「東京のスカウトに問い合わせたら、貴方が「舳い結び」(もやいむすび・船を岸壁のピットに結び手法で、溺れたとき投げられたロープで自分の身体に結び助けて貰う方法)の早さ世界一のアメリカのスカウトを破り、新しい世界一になったことを聞いたからというので、「あー、あのことでね」と納得しました。それからの活動は楽しかったです。キャンプで「すきやきの作り方」を教えたりしました。冬の連休に日本ボーイスカウトの山中湖寮に宿泊し、スキーを楽しむことになりました。もちろん送迎はアメリカ海軍のバスです。用具は寮にあるということですが、私は雪が降ると元街小学校の前のスロープで遊ぶくらいでしたが、横須賀からは雪は苦手というマークという横浜アメリカンスクールに通う中学生が参加しました。今までに2〜3回滑った事がある程度の彼と山中湖で一緒にになりました。そして二人とも小高い坂から滑って自分たちで雪の段差を作り、ささやかなジャンプに成功したのです。やがて彼は軍人であるお父さんの転勤でアメリカに帰ったのですが、私がアメリカに行った時、テキサスのダラスに隊長のジムがいるというので訪ねました。その会話の中で「マーク・ハミル」知っているだろう、映画俳優になって、こともあろうに今度始めて封切られる「スターウォーズ」にスカイウォーカー役で出演するそうだといわれたのです。「スターウォーズ」は日本でも有名だ。あの彼がああ有名俳優？私は瞬間驚きましたが、マークは何事にも熱心な勉強家でした。もしかして会えるかも知れないとワクワクしました。彼は今でも長くその映画の常連です。怪我をした時もその状況で出演していました。さて、アメリカの大学で何を習いたいかとまず聞かれ、法律・経済・文学とか、でも何も考えなくて来た私は困りました。先生は「日本では何をやってたの」と聞くので「学校は商業ですが、仕事は夜に写技師をしていました」というと、「それ

第35期 赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会

開催日：6月26日(日)

会場：杉田劇場

観覧ご希望の方は上記赤い靴事務局まで
事前申し込みが必要です。(全員・ご招待!)



写真：
横浜市民ミュージカル
「忍 SHINOBI 2022」
舞台風景 4/4・4/5
関内ホール・小ホール



今後のスケジュール

★6月26日(日)
第35期
赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会
場所：杉田劇場
出演：赤い靴テンダーフット(ATF)
赤い靴ジュニアコーラス青隊、
赤隊Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
時間：14:00開演(開場13:30)
※全員ご招待(要事前申込制)

★7月31日(日)
第16回
中区ダンスフェスティバル2022
場所：関内ホール・大ホール
時間：①13:00〜 こども中心
②18:00〜 大人中心
料金：600円

★8/6(土)・8/7(日)
横浜市民こどもミュージカル
「横浜三塔ねご物語2022」
場所：関内ホール・小ホール
公演は各日2回公演・全4回
※詳細は後日

※写真撮影・藤原俊太郎氏

2022年4月10日(3月31日発行分)

団長 松永春

にしよう、ハリウッドのビングクロスビープロダクションに教え子が居るので聞いてみる」と言ってくれたのです。「ビングクロスビー」世界中で騒いでいるスターだ。そこだったら最高だと祈りました。やああって先生から返事がありました。そこにテスト用の映写室があり、ラッシュ(昔はワンシーンを撮るとフィルムにして「OK」か「NO GOOD」を見て、だめならば映し直すこと)の役があるとのこと。学校からの派遣だから単位はとれるし、宿舎と食事は相手持ちだ」とラッキーなことを言われました。不思議な大学だったとつくづく思います。映写機は日本と違って楽でした。スターみたいなイケメンが丁寧に教えてくれました。やがて、パスポートの都立で日本に帰らなければならなくなった時、知り合いになった「ジョン・ペイン」という役者がディズニーランドの船に乗るロケーションに連れて行ってきて、彼を写せと私のことを指さしたのです。アメリカ映画の画面に私の顔が写ったと思いますが、輸出向けではないのでそれだけになりました。

日本に帰ってアメリカ帰りの私は、松竹にアメリカの映写機の紹介に行ったのですが、予算が折り合わず交渉は成立しませんでした。結果的にラッシュをマスターしたので大船撮影所で手伝ってくれといわれ、親方を紹介され、古川ロッパやエンタツアチャコなど喜劇映画が多かった大船で暫く頑張りました。また映画の中でチンドン屋の太鼓と鐘たたきが上手な親方と一緒にエキストラ出演が多くなり、私もメイクして旗持ちでエキストラをやりました。今までスクリーンで見られなかった撮影場面に自分が出るというのも楽しく、不思議でもありません。今回のミュージカル「忍」に縁を感じいろいろな想い出が浮かんできます。その「忍」ですが、コロナ禍が高まり感染者数も減少せず、その状況の中で出演者は見事に演じ、多くの観客からも絶賛の嵐を浴び、満足度はひとしおであったと思います。スタッフの配慮も大変でありましたが、ご家族や関係者のご協力を頂いての大成功でした。大きな拍手と感謝を差し上げたいと思います。